

【緊急レポート】使って分かった！オリンパスペンE-P1が魅力的なワケ

日本カメラ

NIPPON CAMERA

2009
September

究極のツボ

デジタル一眼撮影

ヒトより一歩先行く撮影設定術

ニコンDXの旗艦がさらに進化、動画もAFに

ニコンD300S

人気シリーズ第三弾が出現

リコーGR デジタルⅢ

ニコンDXのエントリー機

ニコンD3000

夏の3D デジタルカメラついに発売

富士FinePix REAL 3D システム

タイトルで作品が生まれ変わる？！
写真のタイトル大研究!!

【納涼講座】ド〜ンと写そう雷写真！
今欲しいデジイチを中古カメラ屋さんで選ぶ

口 日とココロをいやす二つの風景
絵 織作峰子「My Switzerland」 & 高 學敏「四川・パンダの故郷」
大坂 寛 / 渡辺友規 / ダニエル・マチャド / 渋谷純広 / hana / 山下恒夫 / 黒澤めぐみ / 金井紀光 / 浜口タカシ

日本カメラ'09年9月号

●藤井智弘

【連載】

NCジャーナル 東川町フォト・フェスタ2009 ●上野 修 他

ファーストレビュー

新製品ニュース ●辻徹直

フォトマーケット

BOOK REVIEW【これを読めばスキルアップできる】

ダニエル・マチャドが出会った旧ミゲレット刑務所

歩く写真評論家【3】 ●飯沢耕太郎

一眼レフの王国【69】 ●田中長徳

チマタのカタチ【21】 ●赤瀬川原平

竹内敏信の新風景撮影・ここがポイント【14】

今月の撮影ポイント「夏の終わり」

Q & A ●木村正博

ロングランレポート募集告知

テストレポート【シグマDP2】

富岡睦草の記録する日々～我が写真回想記【69】

オールドカメラ天国2009

光芒のカメラブランドを往く ●三宅 岳

「それいけ!写真隊」 in 札幌リポート!! ●藤井智弘

読者のひろば

写真展ガイド

プレビュー 三菱一号館記念写真展「一号館アルバム」 他

クラブ誌上展 「写団 四季彩」

プラザ2009

全国写真コンテスト総覧

読者アンケート&プレゼント

編集ノート

ウルグアイはかつて南米のスイスと呼ばれていた

ブラジルとアルゼンチン、そして大西洋に接したウルグアイは、安定した民主主義と高度な福祉で、南米のスイスと呼ばれていたこともある国家。
一九七三年に、ウルグアイの首都モンテビデオに生まれ、大学で建築・コンピュータグラフィックスを学んだ後、フオトグラフアーとして活動するようになったダニエル・マチャドさんが、古き良き時代の旧ミゲレット刑務所 (The Magistrate Jail) の写真に出会ったのは、二〇〇二年のことだった。

約70年前の旧ミゲレット刑務所を撮影した写真に出会う

「法務省の高官から、ミゲレット刑務所の未公開写真のデジタル修復を依頼されたんです。おそらく七〇年は前に誰かが撮って、個人的に持っていたアルバムで、ポロポロになっていたんですが、きちんと修復してみると、経済状態が悪かった頃の刑務所の様子が見え上がってきた。第二次世界大戦が終わった頃というのは、ヨーロッパは経済的に苦しかった。米は戦争に参加しなかったことで、経済的にも豊かだったんです。ウルグアイは死刑制度がない国で、囚人というのは更正するものだという理想のもとに刑務所

ダニエル・マチャド が 出会った 旧ミゲレット刑務所

テキスト / 上野 博



写真右 / 収容者の個室。囚人は更正するものという理念の元に作られた。

写真下 / 53頁の作品の約70年前。この地下が壊され、少ない人数で監視できるようにするために構造が変更された。



も作られていた。古い写真を見ると、すべてが独房で、いわばラクジュアリーな空間であったことがわかります。修復に関わった当時、旧ミゲレット刑務所は打ち棄てられ廃墟と化していた。刑務所という空間の過去と現在を照らし合わせることで見えてくるものがあるのでは、マチャドさんは刑務所の現状をドキュメントすることに決めた。

ウルグアイの廃墟にノスタルジーは存在しない

「ウルグアイは二〇〇二年に深刻な経済危機があつて、都市が荒廃していったんですね。ヨーロッパや日本などでも、荒廃した古い建築をモチーフにした写真表現がありますが、それらは、ロマンティックでノスタルジックな意味合いが大きい気がします。ところが、ウルグアイの廃墟は、今現在の姿なんです。ほぼ一世紀、刑務所として使われる間に犯罪も増え、独房というシステムもやめて、理想とともに建築も打ち棄てられていったんです。一五年ほど前から、刑務所として使われなくなったこの建物、立地条件にも恵まれていたため、さまざまな再利用計画があったんですが、政府が変わることに計画が二転三転し、ようやく今年から、一部がコンテナホラーリーアの展示スペースとして使われるようになったんです。」

新たに撮影された刑務所の写真は、もともと建築を学んでいたマチャドさんならではの視点が反映されたものでもある。

建築写真を通して社会的な問題を表現したかった

「コンピュータを使つて、建築のイメージを勉強していたので、建築を撮ることにも魅力を感じたのが、フオトグラフアーになったきっかけでした。建築がはらんだ社会的な問題などに興味があり、写真を通してそれを表現したいと考えています。とはいえ、写真というのは、文脈によって見え方が変わってきますよね。ウルグアイとアルゼンチンで発表したときには、身近にあるのだけれど意識していない廃墟を、社会的にアナウンスするつもりで撮ったこの作品ですが、日本ではどのように見ていただけたのか、楽しみです。」

祖先はスペインからの移民で、自分には移民の血が流れているというマチャドさんは、二〇〇六年より東京で暮らしており、いくつかのシリーズを制作中とのこと。ストリートなドキュメントから、コンピュータグラフィックスを活かしたコラージュまで、幅広い手法を用いながら、記憶・歴史・社会をしなやかに表現する感性から何が生まれてくるか、今後の展開も注目だ。



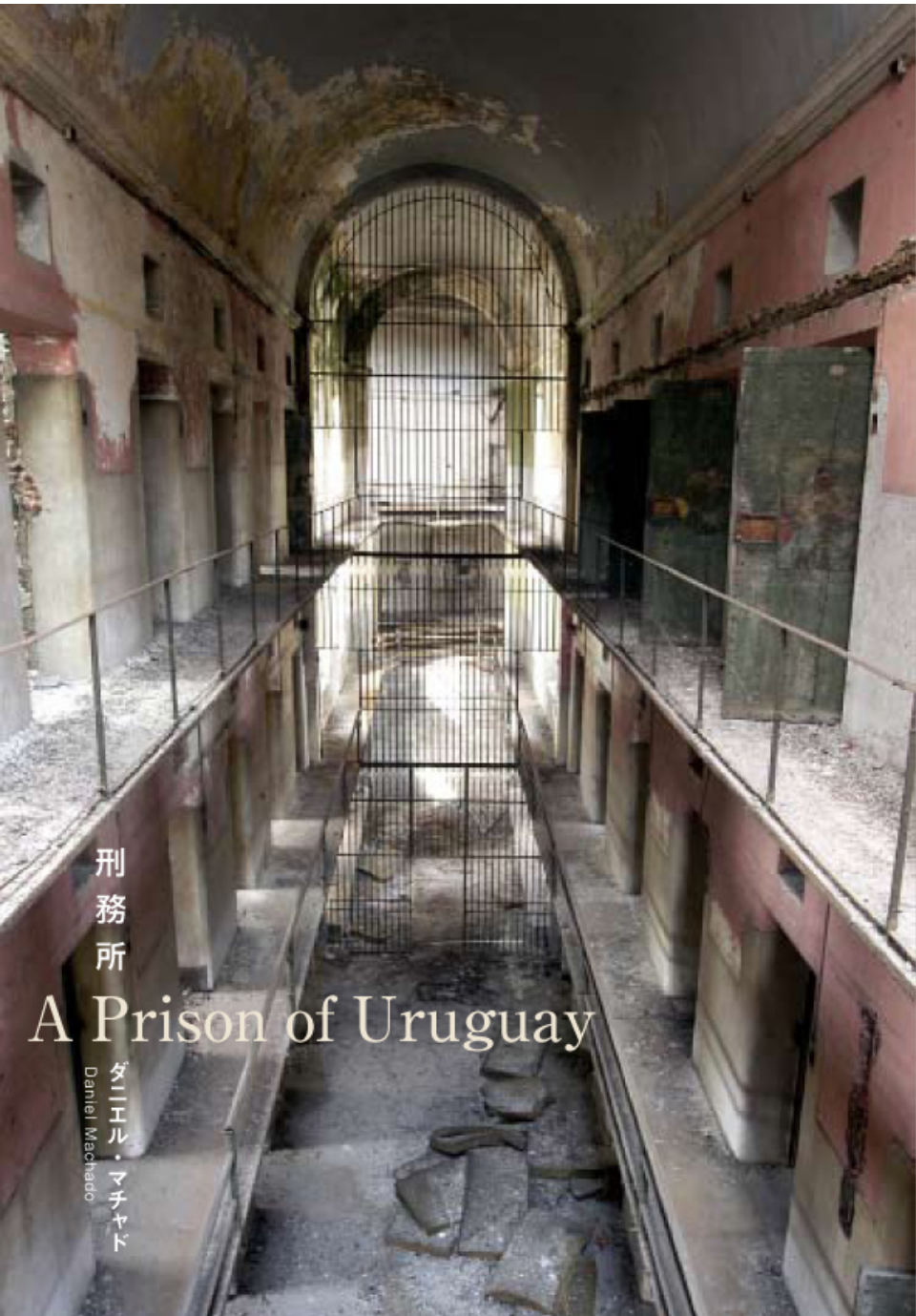
58頁の作品の約70年前。整然とした美がある。



建物は放射線状に4棟が建てられ、収監された囚人は、監視の目を意識することがなかった。



ダニエルさんと通訳してくれた配偶者の村上奈都さん。



刑務所

A Prison of Uruguay

ダニエル・マチャド
Daniel Machado





写真家インタビューが136～137ページにあります

撮影データ ■ ニコン D100 ・ シグマ 17～35ミリ F2.8-4



